

「夢は無限大」

●大曲水辺広場の花だん

こととして結成10周年を迎える、前沢区の「大曲の水辺に夢をつくろう会」(岩淵博会長)が整備した水辺広場。「∞」(無限大)をかたどったユニークな花だんは、会員の「北上川と親しむ」という夢を実現した、同会の活動のシンボルとして知られています。

川の氾濫で、2度も無残に流されてしまった花だんですが、「思いは流されない」が合言葉の会員の手によって何度も修復されています。来年もまた、綺麗な“夢”の花々を咲かせることでしょう。



■取材を終えて

今回の特集「奥州力」では、市内のさまざまな分野で「キラリ」と光る取り組みについてお話を伺いました。

「千支和」の取り組み(4頁)では、「全国でも例が無い」という、市内の厄年連の創作演舞に着目した点に大きな可能性を感じました。祭り準備に、同級生が一丸となり数年間の時間を掛けて「情熱」と「パワー」を注ぐ。前沢春まつり、日高火防祭、江刺甚句まつり、それぞれの祭りで主役を担った彼らの演舞が、「奥州市」の名の下に結集するこの祭りは、全国に誇れるまつりになっていくはずだ。

日本企業初となる、米国テロ対策の認定品を受けた「省力型マンホール蓋」を開発した株式会社シウの高橋代表取締役(6頁)からは、「アンテナを高くし、情報をキャッチする」ことで、地方に居ながらも、世界を相手に挑戦できるんだということを学びました。

江刺区中町商店街の「蔵」を生かした街づくり(8頁)では、一方では、新しいまちづくりのために取り壊す風潮さえあった「蔵」を、逆に「ここにしかない個性」ととらえ、街づくりの核に据えたことが、まさに新たなにぎわいをもたらしました。

グリーン・ツーリズムの受け入れ(10頁)では、合併間もない「奥州市の将来」を考える大きなヒントを得ました。

われわれが当たり前に目にしている自然や景色、当たり前に口にしている食べ物、そして、奥州市の人々の温かい心が、都会の人には驚きに近い感動を与えています。

受入数が年々増加している本市のグリーン・ツーリズム。受け入れた学校の多くがリピーターとなり、確実に「奥州ファン」を獲得しています。「都会にはなく、奥州市にあるもの」が都会の人々には「幸せ」に映っているのでしょう。

当たり前に思っていた「伝統」
当たり前に思っていた「自然」
当たり前に思っていた「人」

普段はなかなか気付かないことですが、視点を変えれば、それらは奥州市の持つ「輝き」であり、「秘めた可能性」であることを、今回の取材を通じて確認することができました。

これらの「輝き」や「可能性」は「奥州市の持つ力」＝「奥州力」と言い換えることができると思います。

この「奥州力」が「奥州市の将来」を考えると、大きな、大きなヒントになるのではないのでしょうか。

皆さんの身近にもきっと、「無限大」に「広がる「奥州力」があるはずです。